
約束の日

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束の日

【Nコード】

N9163K

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

広い背中。

学校への上り坂。

彼の背中をこんなに大きく感じたのは初めてだ。

「アカネ、すっかりつかまっているよ」

「うん、離さない」

「く、苦しいって」

「あはは」

「笑っていると落ちるぞ」

今日は高校の卒業式。

私たちは3年生。

2人一緒に卒業することになる。

自転車のブレーキが鳴る。

「アカネ、着いたぞ」

「うん、ありがとう」

「どうした？」

「・・・うん、何でもないよ」

「大丈夫か？、朝からいつもと違っぞ」

「何でもないよ。急ごう」

「そうか？、卒業式に遅刻はまずいからな。急ごう」

「うん」

私はある決心をしていた。

彼に伝えなければいけないことがある。

私のこの想い。

終わった卒業式。

いつもの待ち合わせ。

自転車置き場。

彼を見つけた。

私の方が先だと思っていたが違った。

吐く息が白い。

もしかして、走ってここに？。

「ア、アカネ・・・」

彼は肩で息をしていた。

今日こそ伝えなければ。

私のこの想い。

「シヨウちゃん、私・・・」

「うん？」

「私ね」

「アカネ、待ってくれ」

拒否された？。

彼がポケットから何かを取り出す。

「これをもらつて欲しい」

「シヨウちゃん？」

「もらつてくれ」

「・・・シヨウちゃん、これは？」

「婚約指輪だ」

「シヨウちゃん？」

「ばあちゃんにもらった指輪だ」

「そんな大切なものを私がもらっていいの？」

「ああ」

指輪を受け取る。

「ありがとう。でも、反則だよ。だってね」

「うん？」

「私ね」

「アカネ、俺と結婚してくれ」

「・・・うん」

予想外だった。

私が彼に言おうとしていたのに。

「シヨウちゃん、反則だよ」

「・・・・・・・・・・」

「シヨウちゃん、私をシヨウちゃんのお嫁さんにして下さい」

「ああ、アカネ。俺と結婚しよう」

「うん、ありがとう」

「約束する。幸せにするからな」

「うん。でも、反則だよ。私、泣いちゃった」

「アカネ・・・」

「大好きだよ」

「俺もアカネが大好きだ」

「うん」

温かい彼の両腕が私を優しく包む。

「シヨウちゃん、しばらくこのままにしてね」

「ああ、これからずっと一緒だ」

「うん」

約束の日

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9163k/>

約束の日

2010年10月15日22時54分発行